

特定非営利活動法人(NPO法人) (通称: AAC21)

21世紀のカンボジアを支援する会

ASSOCIATION OF AID FOR CAMBODIA IN 21 CENTURY

【東京本部】〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-25-7-203
TEL 03-3991-2854 FAX 03-3557-1213
E-mail: info@aac21.net

【カンボジア事務所】 Phom Thmey, Sangkat Rokathom, Krong Chbamon, Komponspeu.
Kingdom of Cambodia
電話 (855) 12-737-559 (855) 12-946-483

【ホームページ】 AAC21

【公式ブログ】

会報

幸福を、平和を、豊かな心を、 カンボジアの友と分かち合おう

アンコールワット

発行日 2013年（平成25年）1月1日

第68号

（年6回発行）
（奇数月）

事務所の部屋番号が変わりました

このほど、本会事務局を同じマンション内で移転いたしました。
701号室⇒203号室になりましたので、お知らせいたします。

高年齢を理由に退位し、その後がんとあることを公表、最近では治療のため北京に滞在することが多かった。カンボジアの現代史は、シアヌーク前国王抜きに語ることはできないだろう。第二次世界大戦中、十八歳で国王に。一九五三年には、

カンボジアのシアヌーク前国王が死去

NPO法人 21世紀のカンボジアを支援する会 理事長 根岸 恒次

カンボジアのシアヌーク前国王が十月十五日、病気のため滞在先の北京で死去した。八十九歳だった。表舞台から去って久しいものの、多くの国民が、「建国の父」の死去を悲しんだ。シアヌーク前国王は二〇〇四年、

宗主国フランスと交渉の末、完全独立を勝ち取った。しかし、一九七〇年に米国の糸を引いたクーデターで失脚、北京での亡命生活を皮切りに、ポルポト政権下での幽閉、一九八〇年の大統領就任、一九九一年の国王へ

の復位と、めまぐるしい時代を駆け抜けた。冷戦時代、米国の中国、ソ連などの大国の思惑にもあそばせられた。カンボジアという小国の独立を死守した信念と情熱と駆け引きのうまさには定評があった。シアヌーク前国王の最大の功績



プノンペンの王宮前で、前国王の死を悼むカンボジア国民

は、独立を勝ち取ったこともさることながら、一九九一年、紛争四派による最高国民評議会の議長に就任し、内戦を収束させたことだ

カンボジアは今、発展途上にある。経済は右肩上がりの成長を続け、政治的にも、ASEANの新メンバーとして躍動している。昨年カンボジアがASEANの議長国になっており、十一月に行なわれた拡大大会にはオバマ大統領も出席した。新興国として成長しつつあるこの国の土台となってくれたシアヌーク前国王に、カンボジアの人たちは心から手を合わせ、感謝している。

在日本カンボジア王国大使館（東京都港区赤坂）では、死去後3日間記帳場を設けて弔問を受け付けたので、私も弔問に出向き、大使に弔意を表した。シアヌーク前国王の業績を讃えるとともに、心からご冥福を祈るものである。



優勝チームの子どもたちと。 (後ろは日立市の皆さん、リーソン閣下、審判さんなど)



決勝戦の試合

小学校を対象にしたサッカー大会を開催している。昨年十一月十日と十一日の二日間にわたり、第五回小学校対抗サッカー大会（ドリフトフォーム）を持参し、参加したムカッブを夢ホームの近く子どもたちに寄贈した。参加したのは、夢ホームの周辺にある「ローロックス小学校」の校庭で開催、選手や応援隊にわたってトーナメント方式で競わら三百人が集まった。本大会は、本会及びカンボジアの子どもたちに夢と希望を贈る市民の会（茨城県日立市）の協賛で開催された。参加したのには、夢ホームの周辺にある八つの小学校。試合は二日間、初出場したチームが優勝した。開催の二日間は第二十二回「カンボジアふれあいの旅」の自由行動日と夢ホームへの訪問日にあたり、数人のメンバーが応援に駆けつけた。十一日に行なわれた閉会式には、同会のアドバイザーであり、地元国会議員のリーソン閣下が出席、子どもたちに賞品を渡してくれた。

カンボジアふれあいの旅に14人の会員さんが参加



小学校で学用品を配る初参加の伊庭安興さん（横浜市）

第二十二回「カンボジアふれあいの旅」が十一月七日〜十三日に行なわれ、十四人の会員さんが参加した。初参加は一人だった。一行は、小学校を訪問して井戸の贈呈式・学用品配布・子どもたちと交流、里子の家庭を訪問、夢ホームを訪問して子どもたちと交流、プノンペン市内観光、参加者の一部は自由行動日にアンコールワット観光を楽しんだ。次回、第二十三回の旅は三月六日〜十二日に実施予定。参加締切日は一月二十日、問い合わせは本会事務局へ。(03・3991・2854)

カンボジアの子どもたちをサポートしてください



小学校で勉強する里子

クメール教育里親会員募集

長かった内戦が終わって平和になったカンボジアですが、国の復興はなかなか進まず、大多数の人々は貧困に苦しんでいます。特に農村では、貧しかったり親を亡くしたりして学校へすら行けない子どもや、学校へ行けても途中でやめてしまう子どもが後を断ちません。本会では、農村の子どもたちが学校へ行けるようにと、教育資金をサポートしてくれる里親さんを募集しております。思えば67年前、敗戦して焦土となった日本を救ってくれたのは、諸外国からの援助でした。カンボジアも食料援助をしてくださいました。日本の子どもたちもその恩恵を受け学校に行けるようになりました。豊かになった私たちが、今度は困っているアジアの子ども達を支援する番です。 ※お友達グループや職場など、グループ単位でサポートしていただくこともできます。

- 【年会費】: 子ども1人につき、1年間3万円。一括納入、分割納入（毎月2500円×12ヶ月）のどちらでも可。所定の郵便振替用紙を使ってお振込みください。
- 【会費の用途】: 学用品、制服、靴などの購入、学校への納付金、お小遣い、生活資金などに使われます。このほか、現地スタッフの給料、ガソリン代、事務所家賃など現地でかかる経費、通信費、印刷費など東京の本部でかかる経費として使われます。
- 【サポート期間】: 最低1年間単位ですが、少なくとも子どもが学校を卒業するまでの期間、サポートしていただけたら幸いです。里子からは年2回、近況を報せる手紙（日本語に翻訳）と写真が届きます。
- 【里子との交流】: 里親さんからの手紙、プレゼントも里子に届けることができ、心あたたまる交流ができます。現地で暮らす里子に会いにくための旅行も年3回実施しております。

本会は皆様からの寄付金のみで活動しているNPO法人であり、公的資金（税金）は一切いただいておりません。



訓練の様子

第九回「鑄造によるアクセサリー作り技術講習会（夢ホーム）」

日本宝飾クラフト学院（本校）東京台東区）の専任講師で、自宅にも工房を持つ榎戸徹彦さん（横浜市・里親会員）が、夢ホーム内に工房を作り、子どもたちへの職業訓練の一環として、鑄造によるアクセサリー作りを技術指導している。

十一月二十日、二十四日、第九回目の講習会が行なわれ、夢ホーム入園者や村に住む子どもたち六人が参加した。九月は休講のため、四ヵ月ぶりに開催した。当初からの訓練生には、銀を流し込むための型作りを、最近になって受講し始めた訓練生には動物のペンダント作りを指導した。

シエムリアップにあるカンボジア雑貨店「クマエ・ユーン」での製品販売を計画しており、榎戸さんは講習会終了後シエムリアップに行き、お店との交渉に臨んだ。

次回の講習会は、一月九日、十二日を予定している。



訓練指導する鈴木千雄さん

十一月七日、九日、板金加工技術修得のための職業訓練プロジェクト「もの作り技術講習会」が児童養護施設「夢ホーム」内の職業訓練棟で行なわれ、夢ホーム入園者や村に住む子どもたち（八人）が参加した。鈴木千雄さん（愛知県あま市・里親会員）が技術指導した。

今回は化粧箱作りにも挑戦、修了式には受講生らが通う中学校の校長先生も出席して生徒たちの労をねぎらった。

次回（十五回）の講習会は、一月九日、十一日を予定している。

11月はカンボジアの小学校に4つの井戸が完成

11月8日、カンボジアふれあいの旅参加者の皆さんが出席し、二つの小学校で井戸の贈呈式が行なわれた。午前中に行なわれた贈呈式には、井戸建設資金を出して下さった佐々木テルさんが娘さんと共に出席、昨年逝去されたご主人の故佐々木二千六さんのネームが刻まれたプレートの上に位牌を置き、故人の冥福を祈った。

午後には、大阪の「岸和田コスモスライオンズクラブ」の皆さんが贈った井戸の贈呈式が行なわれ、生徒と一緒に完成を祝った。



生徒の祝福を受ける佐々木テルさん親子

21日には、根谷崎百合子さん（神奈川県藤沢市・里親会員）が寄贈してくれた井戸の贈呈式が別の小学校で行なわれ、ふれあいの旅後も延泊していた根岸理事長と遠藤啓さん（静岡県伊豆の国市・会員）が出席した。

11月に完成した井戸の内訳

ネームプレートに記されたお名前など	学校名	生徒数	学校の所在地
① 佐々木二千六・テル様	チョンロック小学校	391人	カンダール県アンソール郡
② 岸和田コスモスライオンズクラブ様	ソピア小学校	838人	カンダール県アンソール郡
③ 中野様以下23名の寄贈者様	コップラック小学校	438人	カンダール県キアンスライ郡
④ 根谷崎百合子様	サマイケキーン小学校	308人	カンダール県キアンスライ郡

※通算の井戸設置数（2003年～）=218基（11月現在）

児童養護施設《夢ホーム》日記

ふれあいの旅の皆さんが訪問



及川さんが寄贈した帽子をかぶって記念写真

11月11日、「カンボジアふれあいの旅」に参加した14人が訪問、折り紙や魚釣りを子どもたちと楽しいひとときを持った。特に昼食は子どもたちの要望もあり、近くのレストランで食事をともにした。

神戸ユネスコ協会の皆さんが訪問



お米を寄贈してくれた神戸ユネスコ協会の皆さん

11月18日、神戸ユネスコ協会の皆さん（5人）が訪問、バレーボールやサッカーに興じて子どもたちと交流した。また、お米を4袋寄贈してくれた。昨年5月以来の再会に子どもたちは喜んで受け入れた。

沢山の贈り物をありがとうございました



園田さん夫妻が寄贈した野球道具

本会会員、ふれあいの旅参加者、ユネスコ協会の皆さんが、沢山の贈り物をありがとうございました。子どもたちの大好きなお米は、夢ホームになくはならない食糧品。お米を寄贈して下さった方は次のとおり。

（敬称略）神戸ユネスコ協会、不破律子（兵庫県）、園田健次・美代子（群馬県）、及川英博（岩手県）、加藤和代（静岡県）、平古場正行（神奈川県）、上山陽子（奈良県）。

このほか園田健次・美代子さんから野球道具、上山陽子さんから折り紙・ハンカチなど、佐々木テルさんからお菓子と飴、菊池和雄さんからノートパソコンとデジカメ、角田勲・由美子さんから旅行セット、宮川公子さんからピアノ、三林けい子さんからカセットテーブルコーダーなど、及川英博さんから帽子、大西京子さんからボールペン、竹下幸子さんからおもちゃが寄贈された。皆様、ありがとうございました。

*児童養護施設《夢ホーム》は両親や片親を亡くしたり、親がいても家庭的に恵まれない子どもたちの生活の場として、会員の皆様のご厚意により、2009年1月に建物が完成、同年3月に開園しました。現在、5歳から15歳までの17人の子どもたちが入園、近所の小・中学校へ通学しています。

根谷崎敏彦さんが食堂テーブルを寄贈



全員が座れる長テーブル

夢ホームの子どもたちが毎日使っている食堂テーブルは、2009年開園以来使っていたものが老朽化し、不便を感じていた。この程、根谷崎敏彦さん（神奈川県藤沢市・里親会員）が寄贈して下さったテーブルは全員が座れるほど長いので、余裕をもって食事することが可能になった。ありがとうございました。

男の子が新入園



男の子が1人、夢ホームに入園した。キム・パンニャー君（小学校1年生）、小学校の成績が良く、夢ホームの仲間ともすぐなじんで、仲良く暮らしている。

新入園のキム・パンニャー君

中野勝さんの呼びかけで井戸が完成



完成した井戸を囲んで。（左から中野勝理事長、小原武次郎さん、根岸理事長）

中野勝さん（兵庫県宝塚市・理事）が、友人や本会会員などに呼びかけ、資金を集めて完成した井戸の贈呈式が十一月十六日、カンダール県内の小学校で行なわれた。中野さんと友人の小原武次郎さん（大阪府豊中市・会員）が根岸理事長と共に出席した。

贈呈式では、協力して下さった皆様からの資金により、集まった生徒たちに学用品が配布された。

井戸の傍らには、協力してくれた二十三人のネーム入りプレートが取り付けられた。

中野さんは十一月七日から二十六日までカンボジアに滞在し、王立法律経済大学で習字を教えたり、小原さんと共に夢ホームを訪問してくれた。

神戸ユネスコ協会の皆さんがカンボジア訪問



昨年完成した校舎前で挨拶する加藤会長

十一月十四日、十九日、神戸ユネスコ協会（神戸市中央区・加藤義雄会長）の皆さん（五人）がカンボジアを訪問した。

十五日、昨年五月に神戸ユネスコ協会の支援によって完成したストックアイトロミヤ小学校（コンポンチュナン県）と同県内のソカイオン小学校を訪問、集まった生徒たちに学用品を配り、その後交流した。

十八日には、本会が運営する児童養護施設「夢ホーム」を訪問、お米を寄贈して子どもたちと交流した。

両校とも本会専属のアマチュアカメラマン、遠藤啓さんが同行、クラス別集合写真を撮ってくれた。

同協会は今年五月にもカンボジア訪問を計画している。

里子のサン・リナーちゃんが事故死



カンボジアの牛はおとなしく、愛くるしい大きな眼が特徴的だ。耕耘機の少ないカンボジアでは今でも牛が農作業の中心、牛の世話をするのが子どもたちの日課でもある。

ところが、おとなしくて優しい牛も、時には悪魔に豹変する。昨年10月17日、アンコールワットのあるシエムリアップとカンボジアの首都プノンペンを結ぶ国道6号線で事故は起きた。突然道路に飛び出してきた牛の集団を避けようと大型バスがハンドルを切った瞬間、二人乗りバイクに接触、バイクは転倒して一人の女子高生が死亡した。長年「クメール教育里親基金」が教育支援してきたサン・リナーちゃん（フンセンバーコン高校2年生）だった。カンボジアの新学期は10月、高校2年生になったばかりのリナーちゃんは、友達と一緒に通学途中だった。

カンボジアの交通事故者数は年間1200人、人口が日本の10分の1にしては、その数はかなり多い。将来は会社員になりたいと夢を語っていたリナーちゃんの冥福を祈るばかりだ。

「チャリティーコンサートin新潟」でカンボジア製品販売

では、カンボジア製品の販売も行なった。今年、本会を通じてカンボジアの農村に小学校を建設していただくことになっており、建設候補予定地を検討中だ。



活動支援金の目録をいただく三林けい子さん(右は石川代表)

林けい子さん(新潟市・里親会員)のカンボジア支援活動にも支援金が贈呈された。また、コンサート会場

九月三十日、新潟テルサ(大ホール)において、ウクライナの歌姫、ナターシャ・グジューをお招きし、「チャリティーコンサートin新潟」が開催された。世界の恵まれない地域に小学校を作る会(新潟市秋葉区大蔵・石川幸夫代表)が主催した。同会は、チャリティーショーの収益金などを元に、アジアの貧しい地域に毎年小学校を建設している。当日は、三

里子家庭訪問記録

名前: チン・ピセイ	学校名: トロバンクエク小学校	
年齢: 9歳	学年: 小学校の4年生	性別: 女の子
住んでいる場所: コンボンスプー県、ウドン郡 クノッラムピッル村		
学校までの所要時間: 自転車で15分		
好きな教科: 国語(特に読解が好きです。)		
苦手な教科: 算数(特に算数の割り算を解くのが難しいです。)		
担任から一言: 成績: 道徳A 学校の活動A 健康B 出席A		
家庭状況: 3人の兄弟です。弟さん2人、チン・ピセイちゃんは第1子です。お母さんを亡くしています。お父さんがいます。現在、お祖父さん、お祖母さんと暮らしています。		
一日の過ごし方: 朝5時半頃に起きると、毛布と蚊帳の片付けをします。それから、水を浴びてから少し本を読みます。そして、朝食をし、水を浴びてから身支度をし学校へ行きます。授業が終わってから家に帰ります。午後は少し自習します。毎晩、夕食の後、本を読んだり、先生から出された宿題をしたりしています。そして、9時半頃に寝ます。		
好きな遊び: 絵を描くのが好きです。		
好きな食べ物: 鶏肉、ロンガン(カンボジアの果物)		
将来の夢: 国語の先生です。		



お祖父さん、お祖母さんと立っているチン・ピセイちゃんの写真です。

備考: チン・ピセイちゃんは2003年に生まれて今年、9歳です。子供の頃、病気になり、足に障害が残りました。お母さんは亡くなり、お父さんは村の外で仕事しています。それで、チン・ピセイちゃんの世話をする人がいなかったのです。チン・ピセイちゃん可愛そうなので、お祖父さん、お祖母さんはチン・ピセイちゃんを家に連れて来ました。2人の弟さんは同じ村で伯母さんと暮らしています。チン・ピセイちゃんは歩けないので、学校へ行く時はお祖父さんが自転車の後ろに乗せてあげるそうです。

2012年11月21日 担当者: メン・ソマリ



キン・ソピップちゃんと

二〇〇三年に「クメール教育里親基金」を創設、十一月末日現在、三百六十人を教育サポートしている。カンボジアでは十月に新学期が始まり、里子たちは元気に通学を始めたが、残念ながら二面報告の通り、里子の一人が交通事故に遭って亡くなった。未来ある子どもの死は本当に悲しいものだ。十一月にカンボジア訪問の折、三人の里子を訪問した。その中の一人、キン・ソピップちゃん(サムバットウドン小学校五年生・女の子)は両親を亡くして家もなく、親戚の家を転々として生活した。里親さんからのプレゼントを渡し、頑張るように励ました。夢ホームへの入園を促す事になっている。(理事長、根岸恒次)

クメール教育里親基金活動レポート

本会では、病気や事故、親の離婚などにより両親や片親を失い、経済的にも貧しい環境にあるカンボジアの子どもたちが学校へ行くことができるよう、

よこはま国際フェスタ2012に國學院大學国際協力サークル～優志～の皆さんが出演



出演した学生の皆さん

十月二十日、二十一日、横浜市「象の鼻パーク」で「よこはま国際フェスタ2012」が開かれ、國學院大學国際協力サークル「優志」が出演した。グローバルフェスタと同じ内容だが、会場が山下公園の近くで天候にも恵まれ、たくさんの人々が来場した。来年は本会も出演する予定。

第35回「練馬まつり」に出展



練馬区民でにぎわう会場

十月二十一日、恒例の第三十五回「練馬まつり」が練馬総合運動場(東京都練馬区)とその周辺で開催、本会も出展し、カンボジア製品の販売と会のPR活動を行った。秋晴れで天気もよく、おだやかな一日だった。

グローバルフェスタ2012に出展



買物客でにぎわうテント前

十月六日(七日、グローバルフェスタ2012(東京・日比谷公園)が行なわれ、今年も出展した。一つのテントを確保することができ、カンボジア製品の販売や写真を展示、大勢のお客様ににぎわった。主宰者の発表では、二日間で約十万人が来場したとのこと。

中野理事が公民館でカンボジアをテーマに講演



小田公民館で講演する中野理事

十月十九日、兵庫県学校厚生会尼崎支部で、中野理事(兵庫県宝塚市)が「海外旅行体験交流」と題して講演した。海外体験者として五年連続で講師を担当、カンボジアや雲南省の体験談を話した。また、十一月七日、尼崎市立小田公民館で、「日本とここが違う三十の習慣・生活様式」というテーマで、日本とカンボジアの違いを話した。八十人が集まった。



中央が桑原淑子さん

桑原淑子さんが郷土のオペラ公演

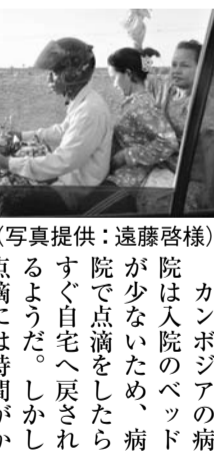
十月二十一日、二本松市コンサートホール(福島県二本松市)で、災害復興被災者応援オペラ公演「鬼ばば昇天」が催された。桑原淑子さん(二本松市・里親会員)が主催、自ら主演した。定員二百二十席が満員だった。原発事故で二本松市内に避難している福島県浪江町の住民、百人を招待して激励した。桑原さんは、毎年一回カンボジアの小学校を訪問し、ピアノ(鍵盤ハーモニカ)の指導を行なっており、今年も一月十四日から訪問する予定。会場で、カンボジアの小学校へ贈るピアノの提供を呼び掛けた。

これもカンボジアならではの光景。カンボジアでは、にわたりを運ぶバイクがよく見かける。にわたりにはチョットお気の毒なシーン。時折り、仰向けにされた豚もバイクに乗せられて運ばれる。カンボジアのバイクは何でも運ぶのだ。



(写真提供: 遠藤啓様)

■にわたりを運搬するバイク
から点滴を続ける患者さんを時々見かける。転倒しないように!



(写真提供: 遠藤啓様) カンボジアの病院は入院のベッドが少なく、病室で点滴をしながら自宅へ戻されるように。しかし点滴には時間がかかるので、バイクタクシーに乗りながら点滴を続ける患者さんを見かけると、心が痛む。

■点滴しながらバイクタクシー
カンボジアの病室は入院のベッドが少なく、病室で点滴をしながら自宅へ戻されるように。しかし点滴には時間がかかるので、バイクタクシーに乗りながら点滴を続ける患者さんを見かけると、心が痛む。



■日中韓米と東南アジア諸国連合首脳会議
十一月十九日、二十日、同会合が首都プノンペンで国際会議場で開催され、オバマ米大統領、温家宝中国首相、李明博韓国大統領、野田首相ら、世界の首脳がプノンペンに集まり、前後を含む四日間、プノンペン市内は戒厳令並みの警戒体制が引かれた。交通規制も多く、プノンペン市内は大混乱。その割に会議の成果はいまひとつだった。



日本ではありえないことだが、カンボジアの小学校の校庭には出店があり、主が先生たちの子供たちを相手に駄菓子やジュースを売っている。先生は安月給なので国が先生の副業を認めているのだろう。子供たちも休み時間、出店で買うのを楽しみにしているようだ。



(写真提供: 遠藤啓様) 日本の小学校では始業の合図はチャイムだが、カンボジアでは鐘の音で始業の合図はチャイムではなく、鐘の音が鳴ると生徒の役目。機械に頼らず、みんなで協力しあうのがカンボジアスタイルだ。

■小学校のチャイムは車の輪
本人の善意が、命をつなぐ水となつてカンボジアの人々の心と体を潤す。



(写真提供: 遠藤啓様) 本会が小学校などに贈呈した井戸はカンボジア全土で約二百二十基、その多くが生徒のみならず、地域住民にも使われている。(写真提供: 遠藤啓様) 井戸リタックを持ってきて井戸水を家庭に運ぶ地域住民

■井戸は地域のオアシス
本会が小学校などに贈呈した井戸はカンボジア全土で約二百二十基、その多くが生徒のみならず、地域住民にも使われている。(写真提供: 遠藤啓様) 井戸リタックを持ってきて井戸水を家庭に運ぶ地域住民



(写真提供: 遠藤啓様) カンボジアには水牛を飼っている農家が多い。主に農耕用だが、飼育

■水牛を操る少年
カンボジアには水牛を飼っている農家が多い。主に農耕用だが、飼育



(写真提供: 遠藤啓様) 日本ではありえないことだが、カンボジアの小学校の校庭には出店があり、主が先生たちの子供たちを相手に駄菓子やジュースを売っている。先生は安月給なので国が先生の副業を認めているのだろう。子供たちも休み時間、出店で買うのを楽しみにしているようだ。

■小学校の売店繁盛

アマチュア写真家、遠藤啓さんがカンボジア訪問

アマチュア写真家の遠藤啓さん（静岡県伊豆の国市・会員）が十一月七日（二十五日）、カンボジアを訪問した。訪問の間、本会の活動にも時折り参加して沢山の写真を撮ってくれた。

特に、カンボジアの小学校の思い出の記念写真をさしあげるため、今回は三つの小学校を訪問し、クラス別に集合写真を撮ってくれた。早ければ、一月にでも小学校へ持参し、子どもたちに一枚ずつさしあげる予定だ。



石川桂さんが寄贈したトロバントム小学校で

カンボジアミニニュース

現地で発行している新聞や情報誌から、カンボジアに関するニュースを紹介いたします。

二〇一三年には八千人の労働者が韓国派遣される見込み

○二二年八月までの八ヵ月間で、カンボジア人労働者合計七千五百八十八人が韓国へ労働に出発し、年末までにさらに二百人が派遣される見込み。この数字は前年の四千九百人と比べると大幅に増加した。

労働省の人材育成・韓国労働者派遣担当のヘン・スー総局長によると、韓国に派遣されてトラブルに巻き込まれるカンボジア人のケースは大幅に減っているという。これまで発生していたトラブルを重く見て、韓国政府は国内法を変えて民間企業の労働者派遣を全面禁止し、政府機関のみがこれを行なうとした。これにより、来年の韓国へのカンボジア人労働者派遣数は八千人を超えると見込んでいる。

政府、公共サービスの向上を目指す

○ 公共サービス向上委員会が公共行政サービス改善のためのサービス標準化についての会議を行なった。

これは、各種行政手続きやその他の公共サービスを受ける国民に対し、行政機関が円滑にサービスを提供し、適時に回答をし、要望に応じ、適切な対応を行なう事を指すものである。政府は今後、公共サービス評価委員会を設置して、適切な対応を行なった省庁や行政機関に対して賞を与えることも検討している。政府は公共サービスの向上は、民間機関からの信頼を得ることであり、投資を促進し、さらに国民の就職機会の確保にもつながる重要な基礎であると考えている。

トレイギアットという魚の塩干物

＊トゥッサナーとは観察するという意味です。

東南アジア最大の淡水湖トンスレップを擁し、国際河川メコンが流れるカンボジアでは、淡水魚を使った料理が食卓によく出る。なかでも魚に下味（塩を降って、市販されて



手前の皿がトレイギアット

ドライギアットや郡部の現地人の食堂で数度食べたが、トレイギアットにはスイカがついて一緒に運ばれてきた。開くと、トレイギアットは塩辛いので、甘いスイカと一緒に食べるのが常だと言われた。日本で、塩サバとスイカは一緒に食べない。ここが違うカンボジアでした。（兵庫県宝塚市・理事、中野 勝）

活動に参加しませんか

ボランティアとして

学用品を現地の学校で配布したり、子どもたちと交流して下さるツアー参加者を募集しています。ツアーは、年三回実施しています。

クメール教育里親基金

農村の貧しい子ども達が学校に行けるようにと教育資金をサポートして下さる里親会員を募集しています。サポート金額は年間三万円（分割も可）です。

会員として

- ・個人会員（年額一〇五〇円）
 - ・法人会員（年額一〇一〇万円）
 - ・里親会員（年額三万円）
- 会員の皆様には、隔月発行する本会の会報「アンコールワット」を発行の都度郵送します。会費の送付は、郵便振替、銀行振込み、現金書留で。（郵便振替口座番号）
- 21世紀のカンボジアを支援する会（口座番号）
- 0013000160916
- ※銀行振込をご希望の方は事務局へご一報ください。
- ※郵貯銀行の自動引き落としをご希望の方は事務局へご一報ください。

紙の募金箱をお部屋に置いてください



本会では、夢ホーム始め現地活動を支えるため、紙の募金箱を作成して皆様にご支援をお願いしております。折りたたみができ簡単に送ることができますので、ご家庭やお部屋に一つ、貯金箱代わりに置いていただけませんか？貯まったお金は郵便局から振替用紙を使って送金ができます。（小銭は郵便局で数えてくれます）お電話いただければすぐに送ります。

投稿

私の戦争体験



警察官になります著者（カンボジアで昨年3月撮影）
写真提供：遠藤啓様

佃井庸八

本会の副理事長、佃井庸八さんは御年九十歳、年に三回実施される「カンボジアふれあいの旅」に参加するなど、今もなお現役で頑張っております。佃井さんから、戦争体験の原稿が届きましたので、しばらく連載いたします。国際協力の原稿ではありませんが、読者の皆様のお役に立てれば幸いです。

4

部隊は行軍の毎日でした。衣類が乾く間もなく朝が来て、また歩きます。マリアの高熱に悩まされ、馬の尻尾につかまりながら、靴下も破れ足の豆もつぶれ血が出ていて、落伍したら終わり、誰も助けてくれない行軍でした。この小さな身体でよく耐えていると、自分ながら感心しました。

パレラ港に着きました。オランダの植民地だった関係で、住民にはさんざん痛めつけられた怨念があり、我々には好意的でした。ここでは、治安維持が主な任務でした。

ここには温泉がありました。ニューギニア戦線で戦った兵士をパレラ港で迎え入れ、温泉に浸らせて休養を取った。骨と皮だけで、一人では歩くこともできない彼らを見て、あらためて戦争の悲惨さを感じました。

八月十五日、とうとう終戦となりました。占領軍は、アメリカ、イギリス、オーストラリア、オランダの各軍、私たち日本兵は捕虜収容所へ。一日で形勢が逆転しました。

こうなれば、一日も早く日本へ帰りたい、上からの命令を持つしかない、それまでは耐え忍ぶしかない諦めました。（つづく）
（群馬県桐生市・副理事長、里親会員）

事務局便り

■現地のカンボジア事務所では、長年勤務してくれたソマリさん（女性）が家庭の都合により、十二月末日で退職しました。また、専任運転手として約二年間勤務したブントゥンさん（男性）も、家の事情により、同じ日に退職しました。

夢ホームでは、九月いっぱいまで退職した保母さんに代わり、十月からキー・スレイネットさん（女性・二十三歳）が新保母として勤務しております。また、警備員さんも十月から、クオン・ドックさん（男性・四十一歳）に代わりました。現職の警察官ですので、子どもたちは安心して生活しています。



新保母のキー・スレイネットさん

- 一月～二月の予定
- お年玉募金のよびかけ（二月いっぱい）
- 会報「アンコールワット」一月一日付第六十八号発行
- ミニツアー実施（二月九日～二十二日）
- 二本松ロータリークラブ他五名がカンボジア訪問（二月十四日～十九日）

真珠のように輝く子供たちの瞳に出会ってみませんか？

「夢ホーム」で子ども達と楽しい交流・里子の家庭訪問・感動的な井戸の贈呈式・学用品配布・アンコールワット観光など 第23回カンボジアふれあいの旅 参加者募集

本旅行は観光旅行では味わうことのできない現地の子ども達との交流をはかることができます。特に本会が運営する児童養護施設「夢ホーム」の子ども達が皆様をお待ちしております。併せて学用品配布などのボランティア活動にも参加でき、思い出に残る充実した海外旅行を楽しむことができます。旅行代金も格安に設定しましたので、お気軽にご参加ください。

もちろんカンボジアといえば世界遺産の宝庫、アンコールワット観光（オプションツアー）も予定に入れました。なお、募集は原則として本会会員を対象にしておりますので、参加される方は、事前に会員登録（一口5,000円）が必要になります。



「夢ホーム」の子ども達が皆さんをお待ちしています



学校訪問では井戸贈呈式に出席します

- 【旅行期間】平成25年3月6日（水）～12日（火）（5泊7日）
- 【募集定員】最少催行人員10名様（定員＝30名）
先着順で受け付け、定員になり次第締め切ります。
- 【滞在ホテル】ミッタピアホテル（ブノンペン）5泊
- 【利用空港】成田空港および関西空港など
- 【旅行日程】6日＝成田空港・関西空港などから乗り継ぎにてカンボジアのブノンペン国際空港へ。
7日＝小学校を訪問、井戸贈呈式と学用品配布など
8日＝夢ホーム訪問、セントラルマーケットで買い物
9日＝教育支援する里子の家を訪ね
10日＝自由行動（オプションでアンコールワット観光あり）
11日＝ブノンペン市内観光後、夕方チェックアウト⇒ブノンペン国際空港から帰国の途へ
12日＝早朝、成田・関西空港などに到着
- 【旅行代金】14万円～15万円を予定。＊現地までの航空券代、空港税、ビザ申請代、現地での宿泊代、食費、車代など、旅行にかかるほとんどの費用を含みます。＊1人部屋希望者追加料金5泊で12,000円。＊日帰りアンコールワット観光26,000円（希望者のみ）＊傷害保険は各自でおかけください。
- 【締切日】平成25年1月20日（日）

お問い合わせ・申し込み

旅行企画☆特定非営利活動法人 21世紀のカンボジアを支援する会
〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-25-7-203 TEL: 03-3991-2854
E-mail: info@aac21.net http://www.aac21.net FAX: 03-3557-1213